

数学 I ・ 数学 A

- (3) 花子さんと太郎さんは、グラフ表示ソフトを用いて、①、②の左辺を y とおいた2次関数 $y = x^2 + px + q$ と $y = x^2 + qx + p$ のグラフの動きを考えている。



(数学 I ・ 数学 A 第 2 問は次ページに続く。)

数学 I ・ 数学 A

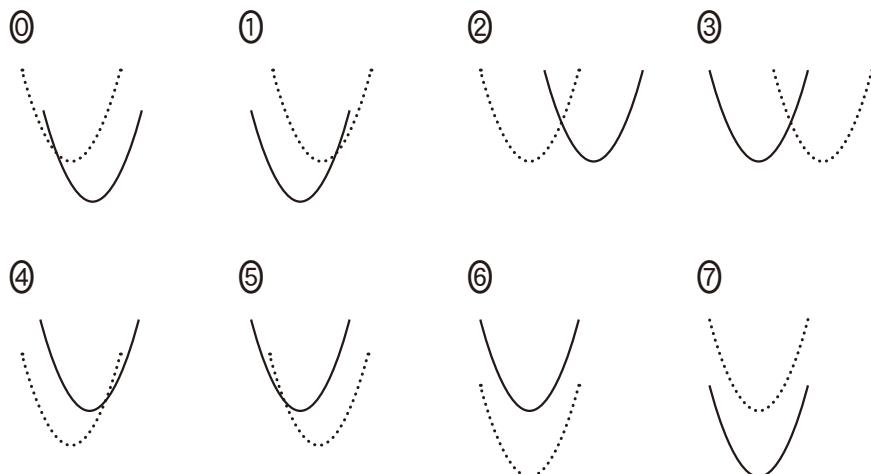
$p = -6$ に固定したまま, q の値だけを変化させる。

$$y = x^2 - 6x + q \quad \dots\dots\dots\dots\dots \quad ③$$

$$y = x^2 + qx - 6 \quad \dots\dots\dots\dots\dots \quad ④$$

の二つのグラフについて, $q = 1$ のときのグラフを点線で, q の値を 1 から増加させたときのグラフを実線でそれぞれ表す。このとき, ③のグラフの移動の様子を示すと **[オ]** となり, ④のグラフの移動の様子を示すと **[力]** となる。

[オ], **[力]** については, 最も適当なものを, 次の①~⑦のうちから一つずつ選べ。ただし, 同じものを繰り返し選んでもよい。なお, x 軸と y 軸は省略しているが, x 軸は右方向, y 軸は上方向がそれぞれ正の方向である。



(数学 I ・ 数学 A 第 2 問は次ページに続く。)

(4) ウ $< q <$ エ とする。全体集合 U を実数全体の集合とし,
 U の部分集合 A, B を

$$A = \{x \mid x^2 - 6x + q < 0\}$$

$$B = \{x \mid x^2 + qx - 6 < 0\}$$

とする。 U の部分集合 X に対し, X の補集合を \bar{X} と表す。このとき, 次のことが成り立つ。

• $x \in A$ は, $x \in B$ であるための キ。

• $x \in B$ は, $x \in \bar{A}$ であるための ク。

キ, ク の解答群(同じものを繰り返し選んでもよい。)

- ① 必要条件であるが, 十分条件ではない
- ② 十分条件であるが, 必要条件ではない
- ③ 必要十分条件である
- ④ 必要条件でも十分条件でもない

(数学 I ・数学 A 第 2 問は次ページに続く。)